

## 令和3年度第2回焼津市男女共同参画プラン推進市民会議（書面会議）会議録

**1 参加した委員**

犬塚協太会長、飯塚秀実副会長、石野恵一委員、飯田裕行委員、藁科順子委員、齋藤不二代委員、浅沼成之委員、宮崎円子委員、岡村一輝委員、黒木朋宏委員、小池清司委員、竹内孝一委員、川井幸子委員、小澤由紀委員

**2 意見募集期間**

令和3年10月15日～令和3年10月27日（1回目）

令和3年11月10日～令和3年11月19日（2回目）

**3 各委員の意見****(1) 男女共同参画プラン推進状況中間報告（ヒアリング結果）に対する意見****【犬塚会長】**

各事業についての総合的な評価は、今回市民協働課が尽力して下さり資料2に補足説明として要領よくまとめられている。その内容については、各特記事項を含め全体に概ね妥当な評価がなされていると思う。全事業の中で、「あまりできていない」が5事業あるが、その問題点もほぼ的確に指摘されており、今後の改善に期待したい。資料3の取組もより積極的に望みたい。補足説明にない66番の事業については、単なる料理教室ではなく男性向けのスイーツ教室など、最近男性が集まりやすい目先の変った企画を試みるなどしてもよいのではないか。そうした中で、補足説明の下線部にあるように、今後コロナ禍が継続しても実施可能な事業のあり方への転換は重要な取組課題と言える。具体的には、各種講座やセミナー等の開催はコロナ禍が収束しても恐らく必然的に対面とオンラインのハイブリッド形式が主流となると予想されるため、それをデフォルトとした運営方法の模索が重要課題であろう。また、126番の事業についての特記事項にあるアンケート調査結果は非常に気になるところで、やはりひとり親家庭の困窮化の進行が大いに懸念される。それを含め、補足説明のもう一つの下線部にあるように、さまざまな困難を抱えた女性等の増加を受けた相談事業の一層の充実と、特に関係諸部門の連携体制の更なる確立が主要な課題といえよう。その他17番の特記事項の通り、商工課にはより積極的な取組を求めたい。

**【飯塚副会長】**

- ・各課で男女共同参画を推進するために様々な取組をしていることがわかりました。これらの取組に関する情報の市民への周知が課題として多く挙げられていました。焼津市の情報はホームページやLineでも見ることができ、広い世代にPRすることができます。特に若い世代には、Lineは有効だと思いました。ただ、Lineで様々な情報がわかることを知らない方も多いのではと思います。Line活用の利点について職場や皆さんが集う場でPRしてもよいかもしれません。
- ・No65 父親の講座への参加を促すには、対策に書かれているとおり平日ではなく休日にすべきだと思います。父親参加の講座が他にもいくつか企画されているので、父親の子育て参加意識を高めるためにも参加率が上がることを期待したいです。楽しければ口コミでも広がるのが期待できるので、「参加してよかった」と思う講座の開設を引き続きお願いします。
- ・No56 子育てや介護等で仕事を辞めた方の再就職を支援する機会を設けることは、是非進めてほしいと思います。働く場があり、しかも自分の能力を生かせることができると気持ち

ちも前向きになり、充実した社会生活を送ることができます。女性の社会進出を進める支援をお願いします。

**【石野委員】**

各部署において、コロナ禍の中、積極的に取り組んでいることがわかります。計画をしても、なかなか実施できなくしていることも、よくわかります。

**【飯田委員】**

「A しおかぜ」7月号で女性の副自治会長さんをきっかけに地域に対して男女共同参画の意識が広がっていることは、市民協働課さんとこの会が積み上げてきたことに対する一つの成果ではと感じました。

学校教育における男女共同参画では、課題に対してしっかりとアプローチされていて、保護者の皆さんにも意識付けができていていると思った。

**【藁科委員】**

子育て支援課の評価が2であるが、男女共同参画を推進するうえで評価を上げていきたい。だいたい子育ては父・母、皆でしていくものという意識や行動は増えていると思うが、社会全体が変わっていかないと推進は難しいと思う。意識や行動を変える取組をもっともってしていくことが必要だと思う。

**【斎藤委員】**

資料1の中間報告を拝見して、それぞれの部署で男女共同参画について考えているということが読みとれた。その意識をもって物事に対処するということが、少しずつ男女共同参画への啓蒙となり前進できるのだと感じています。

**【浅沼委員】****No.6 子育て支援課**

いくら休日を利用して講座を開催しても、父親が魅力に思う内容でなければ参加者は増えないと思う。子育て世代が何を学びたいか、親子でどのように関わりたいか意識調査をしたらどうか？

**No.80 スマイルライフ推進課**

家庭教育支援チームに専門的な知識を持ったスタッフを配置することにより、より幅広い相談に対応できるのではないかな？

**No.120 くらし安全課**

オンライン研修会の参加以外に、こども相談センターをはじめとした庁内連携を密にすることで、様々な情報共有やスキルアップにも繋がるのではないかな。関係する課が合同で共通の研修を受けることも効果があると思う。

**【宮崎委員】**

各方面で男女共同参画を積極的に進める施策が行われており、大変努力されていると感じた。子育てに関して、父親のイベント参加や保健センター来所を勧める（No.13・No.79）というような細やかで直接的な対応が行われていることを知り、地道な啓蒙活動の成果が上がっているのは素晴らしいと思った。

いっぽうで新型コロナ感染拡大の影響が大きく、No.105やNo.126アンケート結果などから、女性にしわ寄せが来ている現状が浮き彫りになった。「非常事態に社会的弱者をいかに守るか」は大きな課題であり、問題点が明らかになった今こそ取り組むべきだと思う。

審議会等への女性委員の登用は、資料3にあるとおり、本来は共同参画が進んだ結果として増えるものである。「女性であること」を理由の一つとして委員に選出されれば、個人の適性ではない部分で判断されたような違和感を覚えると思う。女性が活躍する場の確保や女性の

声が通りやすい組織づくりが重要であることは理解できるが、現時点ではあまり登用率の数値にこだわらず、少しずつでも根本的な意識の向上を図るべきだと思う。

#### 【岡村委員】

- ・各種施策を対面だけでなくリモート対応したのはとても良いことだと思います。コロナが収束しても、手法については選択肢があるといいのでは。
- ・共通課題として、情報の普及があると思います。共同参画に限ったことではありませんが、市民アンケートなどを見ても、市の施策を知らない方は多い気がします。引き続き色々な媒体を検討して、試用・検討をしていただければと思います。

#### 【黒木委員】

低評価の施策に関しては、新型コロナウイルスの影響が大きく、やむを得ないものであったと思われる。それ以外に関しては、評価も良く良好。

#### 【小池委員】

施策No.55, 60 に記載のありますパートタイム就職相談会については、市商工課とハローワークの共催により毎年開催させていただいており、感謝申し上げます。コロナ禍により感染防止対策の徹底など、これまでとは異なる事業運営も必要となっておりますが、子育て女性や高齢者等、多様な働き方に対応するマッチング事業として、毎年定期的で開催し地域に根付いていけば良いなと思っております。また、例えば医療従事者の確保、人手不足分野への労働力移動の促進等、その時の社会情勢やニーズに沿ったイベントも共同で開催できればと思っております。

#### 【竹内委員】

- ①令和3年度の間ではあるが、新型コロナウイルスの感染が続いている中であって、令和2年度の進捗状況と比較して全体の評点は底上げされており、各部署における努力が伺えます。
- ②ただ、施策（実績）や課題に変化（変わり映え）がないのが気になる場所があります。継続性の観点から止むを得ないと思うが、せっかく対策を考えているのだから、次の施策は、この対策に基づいてもう少し具体的な目標を立ててみたらいかがでしょうか。
- ③評価はどのようにして実施しているか理解していませんが、中間の評価（評点3）に偏りがちになっていないでしょうか。思い切って「十分」「不十分」を評価する姿勢を期待します。

#### 【川井委員】

ヒアリング結果から、周知や啓発に苦慮されている様子が伺えました。どうしたら必要な市民に情報が届けることができるかは大きな課題です。さらに、どうしたら横の連携をつなげていけるのかという「つながり」の大切さも感じました。その中で特に印象深かったのは以下のとおりです。

- ・「広報やいづ」で家事は女性、仕事は男性などといった固定的な性別の表現を読み手に植え付けられないよう男女共同参画に配慮した表現の理解を得たことは大きな第一歩です。
- ・7/1 発行「A しおかぜ 60 号」で女性の副自治会長取材したことをきっかけに、男女共同参画を取り上げたいと講師を紹介できたことも大きな前進です。
- ・一部の学校で保護者参観の際に男女共同参画を取り上げたことは意識の向上につながったと思います。それだけではなく、他の学校にも波及できればさらに広く周知されますので期待しています。
- ・年々深刻になっているひとり親への支援は必須です。親子の生活、心身を守るためにも一刻も早い支援の重要性を実感しました。こども庁が創設されればおのずと強化されると思われませんが、関係所属の協力、横のつながりをさらに強固にしていく必要があります。

## 【小澤委員】

コロナ禍の中、各課でそれぞれに施策を推進されていると思いましたが、全体的に子育て中のお母さんには届いているようですが、男性、仕事を持つ女性に情報が届いていないように感じました。女性の立場からですと、特に男性に男女共同参画の内容の必要性を知ってほしいので、もっと知る機会が増えてくれると良いのではと思います。

## (2) 焼津市の男女共同参画プランを推進するために必要なことなど

## 【犬塚会長】

プランの中身は、一定のレベルのものに到達していると考えます。問題は、具体的な各事業の担当課が、個々の事業の男女共同参画政策としての意義や位置づけをよく理解し、着実にその意義に即して実効性のある事業展開を心がけ、必要に応じて常にその内容を見直し、場合によっては、より効果的な事業内容への転換なども時宜に応じて柔軟に対応していく姿勢である。コロナ禍は、決して起きてほしくない災禍であったが、そうした臨機応変な事業対応のあり方を考えるうえでは重要な機会でもあった。さまざまな事業実施がコロナ禍によって阻害されたことは事実であるが、これを奇貨として、今後より実効性のある事業の実施方法を引き続き各方面で検討していただきたい。また特にコロナ禍でダメージをより多く受けた非正規やシングルマザーの女性など弱い立場の人々への配慮とそれらの人々へのより踏み込んだ対策強化にぜひ注力していただきたい。

## 【飯塚副会長】

- ・高齢者（特に男性）が男女共同参画について学ぶ機会がたくさんあるといいと思います。No26には、自治会連合会の研修が11月にあると書かれています。このような研修会をこれから設定し、ここで学んだことを組長会で伝えるなど、広めていく場も必要かと思います。
- ・男女共同参画についての情報発信を充実させることが大切だと思います。「A しおかぜ」の記事も興味深いものがたくさんあります。ネットでも見るできるようになっていますが、より多くの方に読んでもらうための方法を検証していく必要性を感じます。各事業所に紙媒体で「A しおかぜ」が届いた場合、皆さんに回覧するときに、例えば「ここに注目！」など、付箋を付けるだけでも違うかもしれません。ちょっとした工夫も大切にしたいと思います。

## 【石野委員】

自治会での女性参加が少ない。地域での認識不足によるところもあると思われる。会社での育休制度の積極的な利用を進めてはどうでしょう。

## 【飯田委員】

環境問題はまったなしの状態ではあると思うのですが、テレビを含めマスコミは「SDGs」を全面に押し出しているように感じます。老若男女がそのことで機運が高まっていることを考えると圧倒的にメディアの力の影響力を感じます。犬塚先生のお話の中でも日本が男女共同参画の後進国だという内容もありましたし、もっとメディアが注目してくれても良いように思うのですが…

## 【藁科委員】

各課の課長等、年代の上の人たちの意識を変え、若い人たちの柔軟な発想を取り入れる等していくことが必要

**【斎藤委員】**

現在もそのような参画プランのもとで意識しながら物事・作業に対処していると思いますが、全ての人がその意識をもっていれば、世の中どんどん変わっていくのだろうと期待しています。建設的な意見がなくてすみません。

**【浅沼委員】**

新型コロナウイルスの影響で、様々な業種が大きな打撃となり、地域経済が後退していく中で、男女共同参画プランを推進するために充てられる予算も制約され、活動自体に影響が及ばないか危惧している。今後継続して有意義な活動を進めていくには、毎年度一定規模の予算を確保することと、市民全体で本プランに興味をもってもらえるような活動（Aしおかぜの拡充等）をしていくことが必要だと感じた。

**【宮崎委員】**

「女性がいくら働いても収入は男性にはかなわない」（No.126 アンケート結果）という意見にも表れているが、男女共同参画には企業・団体の構造的な問題の解決や意識改革が必要なので、No.17 で指摘されているとおり、商工課や人事課を通じて市民協働課が情報発信を継続していくことが欠かせないと思う。講演会や研修の情報だけでなく、男女共同参画の意義やメリットを具体的に訴えられると良いと思う。

女性の副自治会長を「Aしおかぜ」が紹介したように、さまざまな立場で活躍する人や生活の中で共同参画を実践している人を市民に広く知らせることは意識の向上につながると思う。逆に、女性相談やひとり親家庭からの相談の内容も（個人情報や細部を伏せて）公開すれば、同様の悩みを抱える人やその援助者にとって支えとなる重要な情報になるのではないかな。

**【岡村委員】**

引き続き部署横断的に施策推進をしていただければと思います。広報も含めた成功事例を共有して効果を高めていってください。あとは時間が必要だと思います。

**【黒木委員】**

新型コロナウイルスの影響により、講座や催事が困難であることから、インターネットを利用して講座、Zoom等の利用が望ましいのではないかな。

**【小池委員】**

施策No.17, 39, 55, 58, 61, 62, 68等、様々な場面において、国の施策の推進に係るチラシを情報公開コーナーに設置していただいているとのこと感謝申し上げます。公共職業安定所（ハローワーク）には、仕事をお探しの市民の皆様、事業を営んでいる事業主の皆様が多数来所しますので、チラシやリーフレットの配架により、市の施策やイベント等の周知にご協力できると思いますので、ご活用ください。

**【竹内委員】**

- ①基本は焼津市職員一人ひとりの意識を高めていくことと思います。
- ②1の意見と重複しますが、施策はできるだけ数値目標を入れていくのも方法と考えます。やるべき仕事明確になると同時に、客観的評価がしやすくなると思います。

**【川井委員】**

男女共同参画プランを推進するために市民に情報を届けることが重要です。

- ・焼津市ライン公式アカウントを活用されている方も多いため、トップページにDVについて相談できるフリーダイヤルや子ども相談センターの電話番号を常に表示することも必要かもしれません。

- ・デジタル改革が進むなか、ネット環境が不十分な高齢者の情報源はやはり紙媒体の回覧板かと思います。例えば、定期的に男女共同参画の情報を一枚に集約し回覧すれば年数はかかりますが広く周知されると思います。「広報やいづ」も未だに知らない方もいらっしゃいます。現状は静岡新聞折込みによって配布しているようですが回覧板を利用して配布すれば公平に情報が伝わると思います。

【小澤委員】

- ・企業、職場でのワーク・ライフ・バランスの周知の機会
- ・働き方アドバイザーを市（市民）で増やしていくために講座の開催

(3) 他の委員の意見を踏まえた意見

【犬塚会長】

他の委員の皆様のご多様な貴重なご意見の中から、市役所として取り組んでいただける課題があれば、その取り組みにぜひ努めていただきたい。

【飯塚副会長】

多くの委員が感じているように、市で取り組んでいる様々な施策や必要な情報、男女共同参画の意義やメリット等を市民に届ける方法を模索していく必要があるかと思います。意義やメリットについては宮崎委員もおっしゃっているように、家庭や職場では具体的にどんなことをやっているのか、実践例をたくさん挙げてわかりやすく伝えていくことが大切かと思いました。皆さんに興味や関心を持ってもらうためには、まずは、「具体的」で「わかりやすく」が大切ですね。

【石野委員】

男性の意識改革が大変重要だと思います。

【飯田委員】

年齢や職業など様々な立場の委員の皆様からの意見は多面的な視点で考察されていて、書面会議に特段の違和感を感じませんでした。

2の犬塚会長の提言の中で「コロナ禍で非正規やシングルマザーの女性など弱い立場の人々がより多くダメージを受けており、より踏み込んだ対策強化の必要性がある」と述べられていました。宮崎委員の意見の中で「女性相談やひとり親家庭からの相談内容を公開してみても(Aしおかげ)」とありましたが、同じように悩んでいる方には有益な情報だと私も感じました。対策強化には当たらないのかもしれませんが、精神面へのケアとしては、支えになるのではと思いました。

【藁科委員】

若い世代には男女共同参画意識が浸透しているように感じますが、1人ひとりが意識を変え、社会全体で男女共同参画社会を実現していくことが重要だと思います。コロナ禍により浮き彫りになった課題がたくさんありますが、今こそ男女共同参画意識の重要性を理解してもらえるチャンスだとプラスにとらえて各取組を進めていってほしいです。

【斎藤委員】

- ①浅沼委員の子育て支援課の対策に対しての意見で「休日を利用して講座の開催に対し父親が魅力に思う内容でなければ参加者は増えない」という意見に同感です。父親にしる母親にしる、行ってみたいと思う内容でなければ集まりは悪いだらうと思います（難しいですが…）

- ②どの委員の意見からも新型コロナウイルスの影響が強く各課の活動が思うようにいついていないのではという指摘は同感に思います。

#### 【浅沼委員】

犬塚会長が懸念している126番の事業について、ひとり親家庭の困窮化が大いに心配です。近年この問題は時々マスコミにも取り上げられ話題になっていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、さらに状況が悪化していると感じています。この問題に対して物心内面での支援が急務だと感じました。困窮している人は誰でも何時でも相談できる体制を整えていくことが必要だと感じた。男女が平等で共同参画する社会には、このような問題を一つひとつ丁寧にクリアしていく必要があると強く感じた。

他の委員の意見にもあるように、新型コロナウイルスが感染拡大した昨年度から今年度は、活動自体が制約され、効果を実感できる機会が少なかったと思う。そのような状況下でも各部署が工夫して活動を行えたことは評価できると思う。アフターコロナの活動に期待したいと思います。

#### 【宮崎委員】

「各課の課長等、年代の上の人たち」や「高齢者（特に男性）」に男女共同参画についてもっと学んでほしいという薫科委員・飯塚委員のご意見に同感。学校現場では男女共同参画は当たり前のこととなっている（施策番号24）のに社会に出るとそうではない、という現状を変えるには、会社や地域社会のリーダーたちに意識改革を求めなければならない。自分の親世代を見ていると意識を変えるのはかなり難しいと感じて諦めていたが、年配者が男女共同参画の情報に触れる機会を増やし、根気強く働きかけていくしかないと思った。

また、情報発信の重要性については多くの委員から指摘があった。ホームページやLineなどの活用を進めるのはもちろん、川井委員のご意見にあった回覧板の活用は、高齢者への情報提供という点からもっと見直されるべきだと思う。

#### 【岡村委員】

##### （1. 意見より）

- ・浅沼委員のNo.6「子育て世代が何を学びたいか、親子でどのように関わりたいか意識調査をしたらどうか？」  
→リアルなニーズ調査はとても良いことだと思います。
- ・川井委員の「年々深刻になっているひとり親への支援」  
→私の知り合いにもシンママ支援をしたいと言っている方がいますが、自分の周りにはシンママはあまり聞きません。もしかしたら特定のコミュニティに固まって認知されず、苦しんでいるのかもしれないと思いました。

##### （2. 推進より）

- ・石野委員「自治会での女性参加が少ない」  
→これも理由を掘り下げる必要があるかと思いました。
- ・飯田委員「日本が男女共同参画の後進国だという内容もありましたし、もっとメディアが注目してくれても良い」  
→焼津市の会議でこういうのもなんですけど、やはり一市町村だけで取り組んでも効果は限定的なので、社会全体でじわじわと意識変化する必要があるかと思いました。
- ・竹内委員②「数値目標」  
→達成できなかった場合の分析と対応が重要だと思いますので、ぜひご検討ください。

#### 【黒木委員】

他の委員の意見にもあるように、父親参加の講座に関しては、夜間や休日の実施、オンラインでの実施等により、より参加しやすい方法を模索してはどうか。新型コロナウイルスの影響もあり、オンライン化は望ましいと思われる。

また、男女共同参画を考えるに当たり、法律的な観点から言えば、男女間にある差異が、男女間の合理的理由のない差別なのか否かを検討する必要がある。例えば、政治家や委員等に関しては、立候補者数に対する採用数の割合が男女間で明らかに異なるという話なのか、割合は男女間で変わらないが男性と比較して女性の立候補者数がそもそも少ないという話なのかで議論すべき内容は全く異なることから、より詳細なデータが必要になると思われる。

**【小池委員】**

今後も、機運の醸成を促す地道な活動が大切だと感じています。

**【竹内委員】**

犬塚会長及び複数の委員からのご意見のとおり、コロナ禍により、特にひとり親家庭などの社会的弱者にしわ寄せが及んでいる状況は深刻に思います。

「親ガチャ」という腹立たしい言葉が流行っていますが、子どもが親を選べないのも事実。親によって子どものスタートラインに不公平を生じない社会を願うところであります。その意味で、No.126 の評価が“4”なのは心強く思います。No.126～No.128 の関係部署におかれては連携を密にして、更なるきめ細やかな対応を望みます。

**【川井委員】**

- ・「A しおかぜ」の認知度はまだ低いと思いますがネットで見てもらうためアイデアを出していければいいというご意見に賛同します。また各事業所に紙媒体で「A しおかぜ」が届いた場合「ここに注目！」など、付箋を付けることは実行できると思いました。
- ・女性相談やひとり親家庭からの相談の内容も個人情報や細部を伏せて公開すれば、同様の悩みを抱える人やその援助者にとって支えとなり重要な情報になるというご意見にも賛同します。
- ・庁内連携を密にすることは、様々な情報共有やスキルアップにも繋がり、合同で共通の研修を受けることで本プランも大きく推進できると思いました。

**【小澤委員】**

- ・コロナの影響でできなかった事業を今後できるように進めるため、オンラインの活用を進める。それに伴い、情報を受け取れない（オンラインを活用できない）方たちのフォローもひとつようになってくると思います。
- ・男性への周知がまだまだ足りていないという意見が多く見られましたが、受け取る側の問題もあると思います…。しかし、情報は発信し続けていってほしいので、時間をかけてアナウンスしていってほしいと思いました。